

2. 住民の意向調査

(1) アンケート調査の対象と方法

アンケートは、一般成人及び中学生を対象とした。また、調査方法はアンケート用紙配布による設問・回答方式とした。

一般成人対象者は、各地区の世帯数や男女比の割合を考慮したうえで無作為抽出を行って選定した。配布と回収は、郵送で行った。中学一年生は、各地区1校1クラスずつ、合計4校4クラスに一括送付し、回答後一括返送していただいた。

地区割りは、旧市町村単位とし、安田地区、京ヶ瀬地区、水原地区、笹神地区の4地区とした。

(2) アンケート調査の内容

一般成人アンケート

主な環境資源について「このまま残す」、「改善する」、「分からない」の3つの答えから1つを選択する問い（3択）をメインに、以下の内容で構成した。

- ・対象者の属性（問1～3：2～7択）
- ・自然環境資源33項目（問4：3択）
- ・社会環境資源40項目（問5：3択）
- ・生産環境資源19項目（問6：3択）
- ・身近な生き物（問7：記述）
- ・身近な環境資源（問8：記述）

中学一年生アンケート

いままでに阿賀野市内で行った場所（登った山、泳いだ川等）を記入してもらい、その場所について「このまま残す」、「改善する」、「分からない」の3つから1つを選択する問いをメインに、以下の内容で構成した。

- ・対象者の属性（問1～2：2～3択）
- ・行った場所5項目（問3：記述と3択）
- ・野生生物の種類と名前7種類（問4：記述）
- ・田んぼの生き物の名前6種類（問5：記述）
- ・田んぼや畑の手伝いの有無（問6：3択）
- ・農業の仕事をしたいか？（問7：4択）
- ・住んでいる地区のイメージ（問8：6択）
- ・残しておきたい自然の場所（問9：記述）

(3) アンケート回収の結果

アンケートの回収率は、一般では35%、中学生では100%で、全体では44%となった。詳細は以下の通りである。

表4.2 アンケート回収の結果

	配布枚数	回答数	回収率
一般（配布：11月4日、回収：11月22日）	908	318	35%
中学生（配布：11月初旬、回収：11月30日）	139	139	100%
全体	1047	457	44%

(4) アンケートの集計結果

アンケートの集計結果を、以下の観点から集計および考察した。

一般成人アンケート**《集計》**

- ① アンケート対象者の属性（問1～問3）を阿賀野市全体で集計した。
- ② 自然、社会、生産環境資源（問4～問6）を地区別、年齢別で集計した。
- ③ さらに生産環境資源（問6）を就業者別（農業者と非農業者）に分けて集計した。
- ④ 身近な生き物（問7）を生物分類別に集計した。
- ⑤ 身近な環境資源（問8）を自然、社会、生産環境資源別に集計した。
- ⑥ さらに身近な環境資源（問8）を農業者と非農業者別に分けて集計した。

《考察》

- ① 問4～問6で、全体の1/3以上が『分からない』と答えた資源について、地区毎、年齢別、就業者別（農業者・非農業者）の観点から分析し、今後の資源利用について考察する。また、全体の1/4以上が改善すると答えた資源を抽出した。
- ② 問4～問6の『このまま残す』と『改善する』の資源は環境評価で参考とした。また、問8の資源も必要とあれば環境評価の参考とした。
- ③ 問7は、『身近な生き物』について、「昔と同じくらい見かける」と「昔より増えた」および「いったん少なくなったが最近また見かけるようになった」生き物と「昔いたが最近見かけない」生き物を比較して、「最近見かけない」生き物を抽出した。
- ④ 問8は、将来にわたって子孫に残したい身近な自然、社会、生産環境資源の内訳をさらにキーワードで大別した。また、どのように保全していけばよいかについて、活動レベル（個人、企業、地域、団体、市、国県、その他）で大別した。

中学一年生アンケート**《集計》**

- ① アンケート対象者の属性（問1～問2）を阿賀野市全体で集計。
- ② 山、川、森の資源（問3）、知っている野生生物（問4）、生き物の名前（問5）、農業について（問6～問7）、地域のイメージ（問8）を地区別で、残しておきたい自然の場所（問9）を阿賀野市全体で集計した。

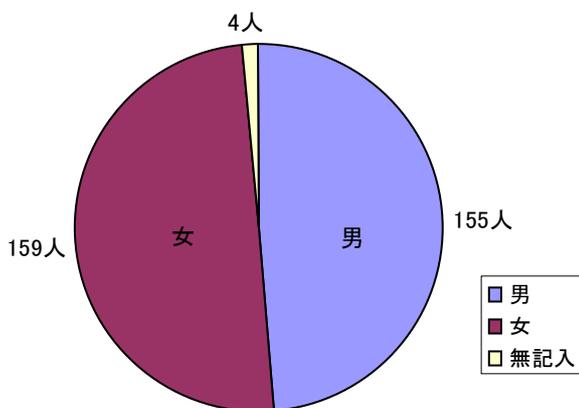
《考察》

- ① 問3は、阿賀野市内で登った山、泳いだ川、釣りをした川、昆虫採集、山菜採りをした場所から人気のある場所を抽出した。また、10%以上が改善と答えた場所を抽出した。
- ② 問4は、阿賀野市の野生生物の名前で人気のある生き物を抽出し考察した。
- ③ 問5は、写真の生き物の名前（和名または通称）の正解率から考察した。
- ④ 問6と7は、田んぼの仕事（問7の1～3）と田んぼを手伝ったことがある（問6の1～3）をクロス集計し考察した。
- ⑤ 問8は、地域のイメージについて考察した。
- ⑥ 問9は、阿賀野市の中で残しておきたい自然が豊かな場所を、キーワードで大別した。また、自然が豊かな場所を残すために必要なことを、活動レベルで大別した。

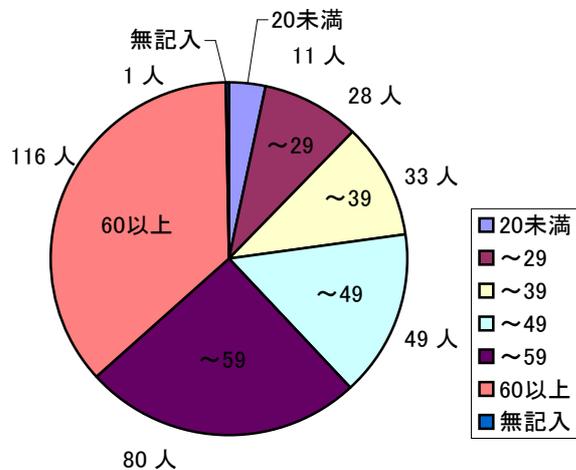
① アンケート対象者の属性（問1～問3）を阿賀野市全体で集計

問1

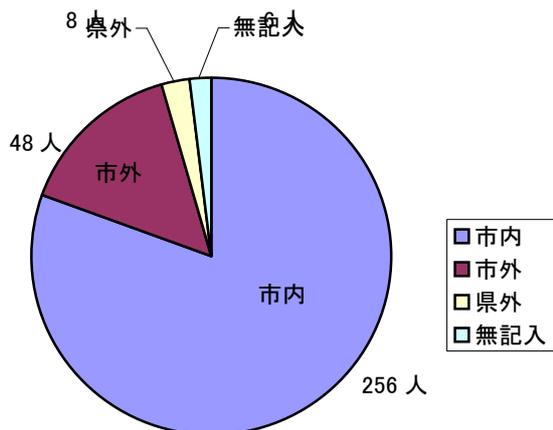
<性別>:全体318人



<年齢>:全体318人

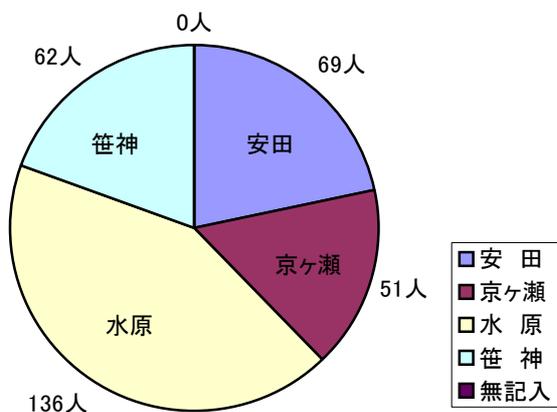


<出身地>:全体318人



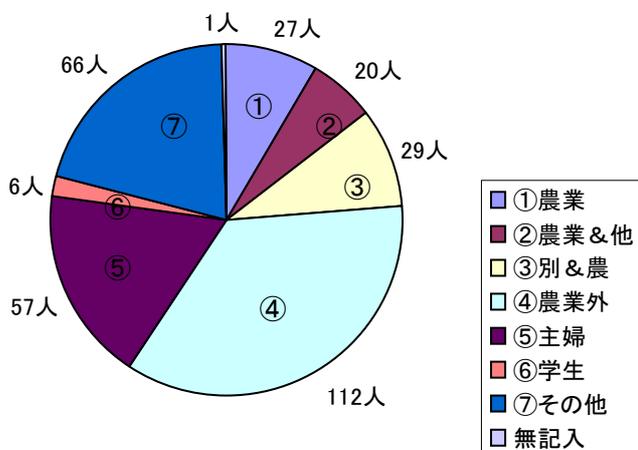
問2

<住居地区>:全体318人

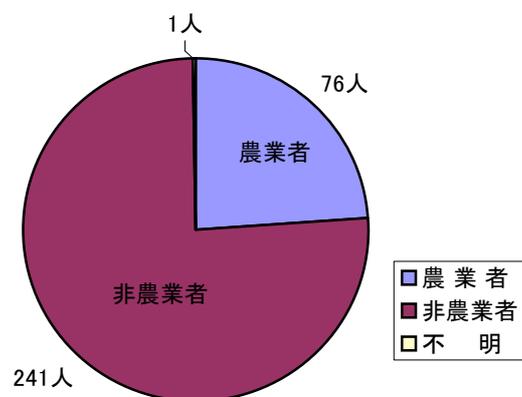


問3

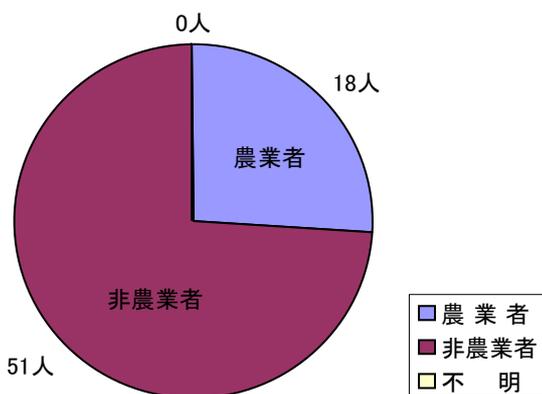
<職業>:全体318人



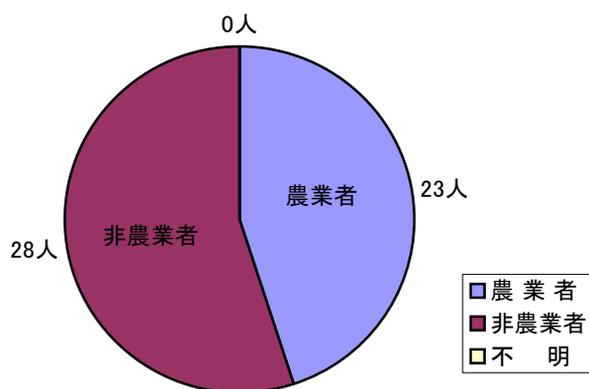
<全体>:318人



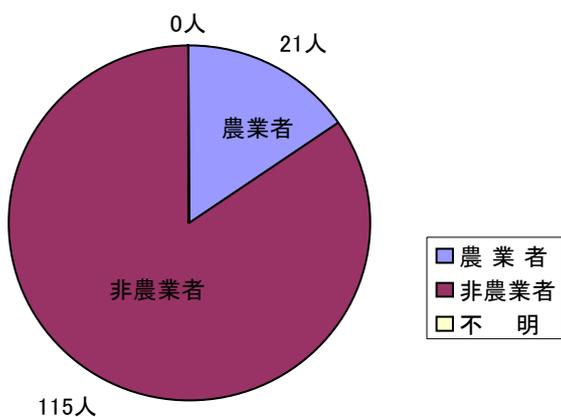
<安田地区>:69人



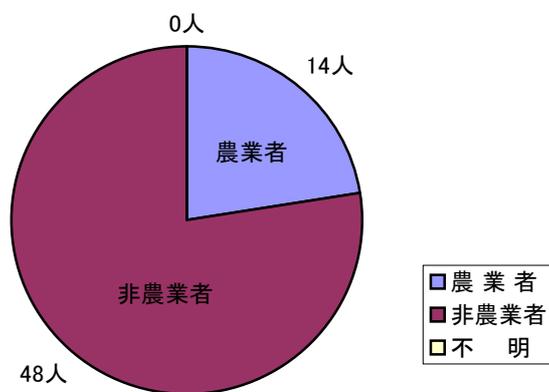
<京ヶ瀬地区>:51人



<水原地区>:136人



<笹神地区>:62人



② 自然、社会、生産環境資源（問4～問6）を地区別、年齢別で集計

自然環境資源（問4）で、全体の1/3以上が『分からない』と答えた資源について、地区別、年齢別の観点から分析し、今後の資源利用について考察する。また、全体の1/4以上が改善すると答えた資源を抽出した。

【集計結果より1/3以上が不明（分からない）と答えた資源】

1. 阿賀野市全体では、自然環境および景観の保護地区で1/4箇所、天然記念物や特定植物群落で5/11箇所が、動植物3/4資源が分からない資源（あまり利用の無い資源）として抽出された。
2. 自然環境および景観の保護地区では、山崎の県指定鳥獣保護区が、笹神地区以外の住民には分からない資源（あまり利用の無い資源）となっている。これらの地区に対して広報や啓発を進めて資源を保存していくことが望ましい。
3. 年齢別では、29歳未満で、天然記念物や特定植物群落7/11箇所、水原地区で7/11箇所、動植物では京ヶ瀬地区で4/4資源が、分からない資源（あまり利用の無い資源）となっている。この年齢層と地区を中心に、広報や啓発を進めて資源を保存していくことが望ましい。

NO	全 体 (318)	安田 (69)	京ヶ瀬 (51)	水原 (136)	笹神 (62)	29歳未満 (39)	30~59歳 (162)	60歳以上 (116)
自然環境および景観の保護地区								
3	山崎の県指定鳥獣保護区	1箇所	2箇所	1箇所	なし	1箇所	1箇所	なし
天然記念物や特定植物群落								
10	石井家の大ケヤキ（安田区）	4箇所	6箇所	7箇所	1箇所	7箇所	5箇所	5箇所
11	宗寿寺の大イチヨウ（安田区）							
12	諏訪神社の十郎杉（笹神区）							
13	滝沢の落葉広葉樹林（笹神区）							
15	十二湯の水生植物群落（京ヶ瀬区）							
動植物（絶滅危惧種、天然記念物等）								
16	ミミカキグサ、タヌキモ、ミクリ、パイカモ、ラン等の絶滅危惧植物	2資源	4資源	3資源	なし	2資源	3資源	3資源
17	ヨタカ、ミサゴ、ハチクマ、サンショウクイ等の絶滅危惧鳥類							
19	ツキノワグマ、ホンドキツネ、ホンドタヌキ等の中大型哺乳類							
身近な動植物								
	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

【集計結果より1/4以上が改善と答えた資源】

1. ツキノワグマ, ホンドキツネ, ホンドタヌキ等の中大型哺乳類 笹神地区で29%

社会環境資源（問5）で、全体の1/3以上が『分からない』と答えた資源について、地区別、年齢別の観点から分析し、今後の資源利用について考察する。また、全体の1/4以上が改善すると答えた資源を抽出した。

【集計結果より1/3以上が不明（分からない）と答えた資源】

1. 阿賀野市全体では、歴史・文化資源で17/22箇所、身近な緑地・憩い空間で16/17箇所、身近な親水・憩い空間で6/9箇所、環境保全活動で4/5資源が、分からない資源（あまり利用や関心の無い資源）として抽出された。この資源については、広報や啓発を進めて資源を保存していくことが望ましい。
2. 歴史・文化資源は、安田地区で12/22箇所、京ヶ瀬地区で19/22箇所、水原地区で17/22箇所、笹神地区で13/22箇所が住民には分からない資源（あまり関心の無い資源）となっている。地区間交流を深めながら広報や啓発を進めて資源を保存していくことが望ましい。身近な緑地・憩い空間では安田地区で11/17箇所、京ヶ瀬地区で11/17箇所、水原地区で16/17箇所、笹神地区で15/17箇所、身近な親水・憩い空間では安田地区で3/9箇所、京ヶ瀬地区で7/9箇所、水原地区で7/9箇所、笹神地区で5/9箇所が住民には分からない資源（あまり利用の無い資源）となっている。これらの公園施設の必要性について検討し、更新していくべきと考えられる。
3. 環境保全活動では、安田地区で3/5件、京ヶ瀬地区で5/5件、水原地区で5/5件、笹神地区で2/5件が住民には分からない保全活動（あまり関心の無い資源）となっている。環境保全活動は、活動の拡大を図ることを目標に、広報や啓発を進めて資源を保存していくことが望ましい。

NO	全 体 (318)	安田 (69)	京ヶ瀬 (51)	水原 (136)	笹神 (62)	29歳未満 (39)	30~59歳 (162)	60歳以上 (116)
歴史・文化資源								
2	横峯経塚出土品	12箇所	19箇所	17箇所	13箇所	18箇所	19箇所	15箇所
3	安田城跡							
6	華報寺の文化財（墓跡出土品、板碑）							
7	安田八幡宮の文化財（安田町割直り屋敷図）							
8	磨崖石仏（如意輪観音座像）							
9	立石神社の文化財（立石）							
10	福正寺の文化財（福正寺五百羅漢像・羅漢堂版木）							
11	ツベタ遺跡遺物							
12	久保八幡神社の文化財（久保八幡社社殿・十二支彫刻）							
13	赤松城山（阿賀野市保田財産区）							
14	堀越館跡							
15	多賀浮州神社の文化財（小笠原・高尾権現頌徳碑）							
17	石仏群（阿弥陀如来像半浮彫）、五輪塔							
18	水神様（長起地区）							
19	発久遺跡出土遺物							
20	笹岡城址（笹岡地区）							
21	賽ノ河原石造物群（勝屋地区）							

NO	全 体 (318)	安田 (69)	京ヶ瀬 (51)	水原 (136)	笹神 (62)	29歳未満 (39)	30~59歳 (162)	60歳以上 (116)
身近な緑地・憩い空間								
23	藤堂コミュニティ公園（寺社字藤堂）	10箇所	11箇所	16箇所	15箇所	16箇所	16箇所	12箇所
24	赤松山森林公園（保田字赤松沢）							
25	緑岡第1～4公園（緑岡）							
26	京ヶ瀬工業団地記念公園（京ヶ瀬工業団地）							
27	下里桜つつみ公園（京ヶ瀬工業団地）							
28	駒林農村公園（駒林字金淵原）							
29	ふるさと公園（曾郷字石塚）							
30	分田児童公園（東町）							
31	天神堂農村公園（天神堂）							
32	下山口農村公園（山口）							
33	堀越農村公園（堀越）							
34	次郎丸農村公園（次郎丸）							
35	上高田農村公園（上高田）							
36	赤坂堤農村公園（六野瀬）							
38	東部産業団地公園（保田）							
39	五頭の里公園（押切）							
身近な親水・憩い空間								
40	都辺田川親水公園（保田字水押）	3箇所	7箇所	7箇所	5箇所	7箇所	6箇所	5箇所
41	籠尻川河川公園（下黒瀬字前川原）							
42	久保山水禽公園（久保字山谷）							
45	じゅんさい池公園（村岡）							
46	賽の河原公園（畑江）							
47	渡場親水公園（六野瀬）							
環境保全活動								
49	ふるさとのスギ・森林整備アシスト（新潟県林業普及指導職員協議会）	3資源	5資源	5資源	2資源	4資源	5資源	3資源
50	雑木林の観察会（山林ボラン広場）							
51	村杉温泉「うららの森」での環境保全活動（NPO 里山クリーン新潟）							
52	五頭植林の集い（旧五頭スキー場の森林復元：ブナ友の会）							

【集計結果より1/4以上が改善と答えた資源】

1. 緑岡第1～4公園（緑岡）：京ヶ瀬地区で29%
2. 京ヶ瀬工業団地記念公園（京ヶ瀬工業団地）：京ヶ瀬地区で33%
3. 下里桜つつみ公園（京ヶ瀬工業団地）：京ヶ瀬地区で27%
4. 天朝山公園（中央町二丁目）：水原地区で27%、29歳未満28%、30～59歳25%
5. 水きん公園（水原）：水原地区で27%
6. 廃棄物（ゴミ排出量）：全体66%
7. 生活排水（家庭排水）の汚水：全体67%
8. 高齢化に対応した社会環境（介護支援、生活支援など）：全体53%
9. 情報通信基盤（インターネット利用等による住民への情報サービス）：全体40%
10. 森林資源（多目的利用）：全体26%
11. 郷土料理や特産品を作る技術をもつ人：29歳未満28%
12. 民芸品を作る技術をもつ人：29歳未満26%
13. 里山や棚田の手入れの技術をもつ人：安田地区で25%、30～59歳27%
14. 市外からの観光客（熱烈的な阿賀野市ファンの人々）：全体31%

生産環境資源（問6）で全体の1/3以上が『分からない』と答えた資源について、地区別、年齢別、就業別の観点から分析し、今後の資源利用について考察する。また、全体の1/4以上が改善すると答えた資源を抽出した。

【集計結果より1/3以上が不明（分からない）と答えた資源】

1. 阿賀野市全体では、圃場整備地区 3/3 箇所、農業水利施設 6/6 箇所、山間地域の農地 1/1 箇所、人的資源 6/6 資源、その他資源 2/6 資源が、分からない資源（あまり関心の無い資源）として抽出された。アンケート回答者の 3/4 を占める非農業者の半分以上の人が圃場整備地区、農業水利施設、山間地域の農地、人的資源が分からないと回答している。非農業者に対して農業に関する広報や啓発を進めて、生産環境資源の保全対策をおこなっていくことが強く望まれる。
3. 農業水利施設については、笹神地区を除く地域で 50%前後の人が保存と答えている。
4. 人的資源については笹神地区を除く、他の3地域で全資源が分からない資源（あまり関心の無い資源）となっている。笹神地区の場合は、回答率が他地区より約 10%低いこと、また非農業者の家族や親戚が農業に携わっている人が多いことが原因と考えられる。
5. その他資源では、阿賀野市全体では有機質資源と畜産業が分からない資源（あまり関心の無い資源）となっている。笹神地区にはゆうきセンターがあり、安田地区は新潟県の酪農の発祥地で、安田乳業がある。地区間交流と非農業者へ広報や啓発を進めて、資源の保存を進めていくことが望まれる。

NO	全 体 (318)	安田 (69)	京ヶ瀬 (51)	水原 (136)	笹神 (62)	29歳未満 (39)	30~59歳 (162)	60歳以上 (116)	農業者 (76)	非農業者 (241)
圃場整備地区										
1	長起地区 (108ha : H8~18 ほぼ完了)	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	2箇所	3箇所
2	次郎丸地区 (22ha : 完了)									
3	新しい圃場整備をしていない農地 (水田、畑など)									
農業水利施設										
4	現在ある阿賀野川右岸幹線用水路	4箇所	1箇所	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	2箇所	なし	6箇所
5	現在ある新江用水路									
6	改修された新しい駒林川									
7	改修された新しい旧小里川									
8	改修される新しい安野川									
9	現在ある田んぼの用水路やため池、および排水路									
山間地域の農地										
10	丸山および大日~折居の農地 (水田、畑など)	1箇所	1箇所	1箇所	なし	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所

NO	全 体 (318)	安田 (69)	京ヶ瀬 (51)	水原 (136)	笹神 (62)	29歳未満 (39)	30~59歳 (162)	60歳以上 (116)	農業者 (76)	非農業者 (241)
人的資源										
11	集落営農組織	6資源	6資源	6資源	2資源	6資源	6資源	6資源	なし	6資源
12	用水組合									
13	認定農業者									
14	副業的農家（兼業農家）									
15	市内外の消費者									
16	農業教育（農業高校などの設立）									
その他資源										
18	有機質資源（家畜排泄物、農産物等のバイオマス利活用）	2資源	2資源	3資源	なし	5資源	2資源	2資源	なし	3資源
21	畜産業									

【集計結果より1／4以上が改善と答えた資源】

1. 新しい圃場整備をしていない農地（水田、畑など）：全体31%
2. 現在ある田んぼの用水路やため池、および排水路：全体32%
3. 集落営農組織：京ヶ瀬地区25%、水原地区25%、30～59歳28%、農業者36%
4. 用水組合：京ヶ瀬地区31%、30～59歳28%、農業者34%
5. 認定農業者：30～59歳28%、農業者30%
6. 副業的農家（兼業農家）：笹神地区26%、30～59歳28%、農業者32%
7. 市内外の消費者：全体26%
8. 農業教育（農業高校などの設立）：全体27%
9. 耕作放棄地：**全体52%**
10. 有機質資源（家畜排泄物、農産物等のバイオマス利活用）：全体35%
11. 農産加工品（特産品や土産物等）：全体35%
12. 特別栽培米（無農薬栽培米などのブランド米）：全体27%
13. 畜産業：全体25%
14. 農産物の販売方法：全体46%

注）人的資源の項目は、このまま残す（保存）→組織や技術等を継承する、改善する→さらに増やす・または支援する、の意味です。

④ 身近な生き物（問7）を生物分類別に集計

『身近な生き物』について、「昔と同じくらい見かける」と「昔より増えた」および「いったん少なくなったが最近また見かけるようになった」生き物と「昔いたが最近見かけない」生き物を比較して、「最近見かけない」生き物を抽出した。
 また、2005年9月28日におこなった現地調査結果と比較した。

【昔いたが最近見かけない生き物】

※ は現地調査で確認された種

哺乳類 (2種)	鳥類 (8種)	両生爬虫類 (7種)	淡水魚類 (8種)	淡水貝類 (2種)	昆虫類 (10種)	甲殻類 (2種)	植物 (1種)
ニホンカワウソ コウモリ	カッコウ キツキ ツバメ フクロウ ミミズク メジロ ヤマドリ コヨシキリ	イモリ ガマガエル サンショウウオ トカゲ マムシ ヤマカカシ ヤモリ	アブラハヤ アユ カジカ ナマズ ヤツメ ヤマメ ライギョ ワカサギ	カワニナ マキガイ	オニヤンマ カナブン カナタタキ カブトムシ クワガタ ゲンゴロウ コガネムシ ヒコウキトンボ ミズカマキリ ミズスマシ	カワエビ カワガニ	ミソハギ

【2005年9月28日現地調査で確認した生き物】

両生爬虫類 (7種)	鳥類 (8種)	淡水魚類 (8種)	淡水貝類 (2種)	昆虫類 (10種)	甲殻類 (2種)
トノサマガエル ツチガエル	チュウサギ	ウグイ ツチフキ タイリクバラタナゴ アブラハヤ メダカ モツゴ トウヨシノボリ コイ	マルタニシ カワニナ マシジミ	セスジイトトンボ ツバメシジミ ヒメアカタテハ アキアカネ オニヤンマ ギンヤンマ ベニシジミ キイトトンボ オオチャバネセセリ	アメリカザリガニ

⑤ 身近な環境資源（問8）を自然、社会、生産環境資源別に集計

将来にわたって子孫に残したい身近な自然環境資源、社会環境資源、生産環境資源を、キーワードで大別した。

分類	自然環境資源	分類	自然環境資源
水 ・ 川 (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿賀野川 ・ 駒林川 ・ 安野川 ・ コンクリートじゃない川 ・ 護岸工事をしていない川 ・ 新江用水路 ・ 瓢湖の自然 ・ きれいな小川 ・ 安心して遊べる川や池 ・ きれいな水 ・ 岩瀬の清水 	農地 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田や畑
		景観 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田園風景 ・ 畑作風景 ・ 田舎の風景
		環境 ・ その他 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五頭連峰県立自然公園 ・ 県指定鳥獣保護区 ・ 温泉
山 ・ 緑地 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五頭山 ・ 美しい里山 ・ 森林 ・ 緑の森 ・ 豊かな緑 		
動植物 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚類、鳥類、昆虫 ・ ホタルの群生地 ・ 野鳥の集まる自然環境 ・ 水辺の動植物 ・ 小川の生物 ・ 自然なままの動植物 ・ 水生植物 ・ 特定植物群落 ・ 土手の草花、ヨモギ、フキ等 ・ 学校等の桜の木 		

将来にわたって子孫に残したい身近な自然環境資源、社会環境資源、生産環境資源を、キーワードで大別した。

分類	社会環境資源	分類	生産環境資源
歴史 ・ 文化 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財（古民家等） ・地域の伝統文化（祭等） ・集落の施設（神社や地蔵仏） ・集落の文化（神楽舞の伝承） ・神社、やしろ、鳥居等 ・歴史、文化資源 ・歴史、文化 	農地 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場 ・整備された水田、畑 ・きれいな田、畑 ・用排水路
生活 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者介護の施設 ・下水道の整備 ・安心して飲める水 ・近くにあるふるさと公園 	農産物 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り ・安全な農作物
その他 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな阿賀野市の郷土 ・郷土の誇りと愛着 	技術 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・風力発電 ・うまい米作りの基盤
		その他 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・田園的土地利用 ・農村（田、畑）地帯 ・希望を持てる農業

将来にわたって子孫に残したい身近な自然環境資源、社会環境資源、生産環境資源を、どのように保全していけばよいかについて、活動レベルで大別した。

活動レベル	自然環境の保全	社会環境の保全	生産環境の保全
個人レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・個人モラルの向上 ・家庭における環境保護の実践 ・自ら自然を守るという意識 ・自然を大切に作る心 ・除草剤を使用しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保護のためのリサイクル ・生活の見直し ・個人モラルの向上 ・ゴミを出さない、捨てない、汚さない 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の継続 ・低農肥料による稲作、野菜作り ・非農薬による農作物づくり ・稲作の低農薬の徹底 ・農作物の減農薬化
企業レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・開発の見直し・規制 ・自然環境保全のためのリサイクル ・過剰開発による環境破壊を避ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発の見直し・規制 	
地域レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・保全に対する住民意識の高揚 ・地域一帯の保全活動 ・植樹活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による保全活動の実施 ・清掃や整備を全市民で行う ・市民の積極的取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の保全 ・後継ぎの確保 ・農業後継者の育成 ・田畑の放棄地をなくす ・農道、用排水路の維持管理
団体レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・専門チームによる魚の放流と管理、保全活動 ・保全活動に対するシルバー人材やNPOの活用 ・環境保全に対する学校教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保全に対する学校教育 ・学校の児童や地域住民の協力 ・ボランティアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の会社組織化 ・シルバー人材の活用 ・農業サポーターの確保 ・子供達のための農業体験学習
市レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・行政による自然環境の見直し ・下水道の整備 ・市または地域から環境保全のための要員を選出し保存活動を助成する ・都市計画の見直し ・行政による定期的な維持管理 ・開発に対する行政指導 ・ゴミのポイ捨て禁止条例 ・地域と連携をとるためのイベントや広報を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の積極的取組み ・市または地域から環境保全のための要員を選出し保存活動を助成する ・行政による定期的な維持管理 ・都市計画の見直し ・地域住民への文化資源に対する啓発及び広報 ・文化財の補修、修繕 ・管理者による定期的な維持管理 ・地域と連携をとるためのイベントや広報を強化する ・保護地区としての市民への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤整備、農地の流動化促進 ・緑豊かな土地と農と食のバランスのとれた保全 ・生産性のある農林業への転換
国県レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県からの支援 ・環境対策の強化 ・環境汚染に対する罰則の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の積極的取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県からの支援 ・休耕田を増やささない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・河川のコンクリート護岸の見直し ・里山の手入れ ・農業排水の浄化 ・河川の自然再生 ・保全に関する講演会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備と保存活動 ・環境美化意識の高揚と確立 ・保全に関する講演会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物による農作物の被害対策

⑥ 身近な環境資源（問8）の生産環境資源を農業者と非農業者別に分けて集計

【将来にわたって子孫に残したい生産環境資源】

非農業者の意見

生産環境
<ul style="list-style-type: none"> ・整備された水田、畑 ・きれいな田、畑 ・安全な農作物 ・風力発電 ・うまい米作りの基盤 ・田園的土地利用

農業者の意見

生産環境
<ul style="list-style-type: none"> ・圃場 ・用排水路 ・米作り ・農村(田, 畑)地帯 ・希望を持てる農業

【生産環境資源をどのように保全していけば良いか】

非農業者の意見

生産環境
<ul style="list-style-type: none"> ・農業の継続 ・非農薬による農作物づくり ・稲作の低農薬の徹底 ・農作物の減農薬化 ・農家の保全 ・後継ぎの確保 ・農業の会社組織化 ・農業サポーターの確保 ・子供達のための農業体験学習 ・野生動物による農作物の被害対策

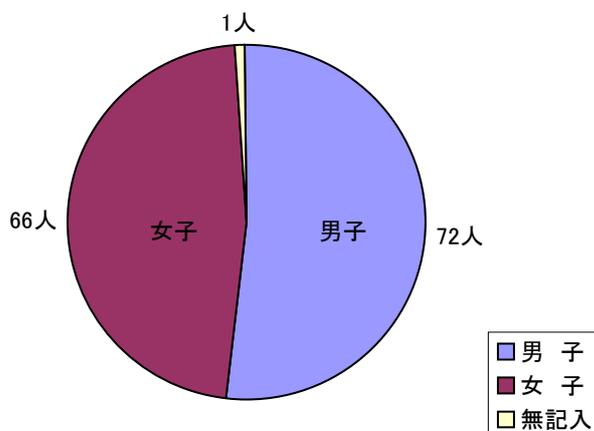
農業者の意見

生産環境
<ul style="list-style-type: none"> ・低農肥料による稲作、野菜作り ・農業後継者の育成 ・田畑の放棄地をなくす ・農道、用排水路の維持管理 ・シルバー人材の活用 ・基盤整備、農地の流動化促進 ・緑豊かな土地と農と食のバランスのとれた保全 ・生産性のある農林業への転換 ・国や県からの支援 ・休耕田を増やさない

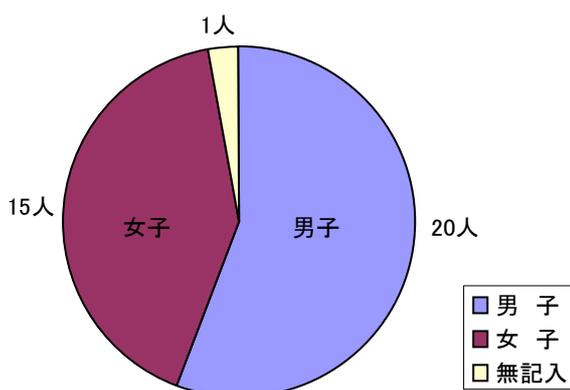
① アンケート対象者の属性（問1～問2）を阿賀野市全体で集計

問1：性別

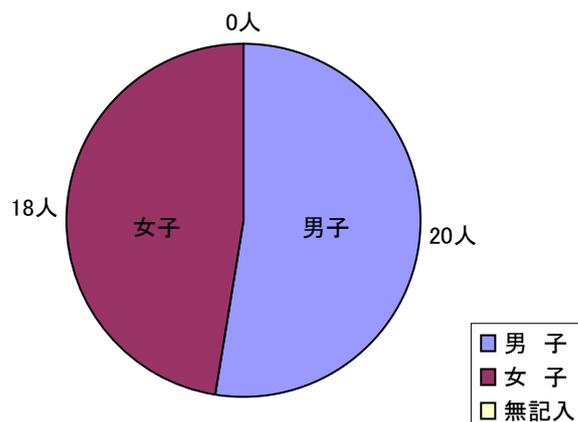
性別＜全体＞：139人



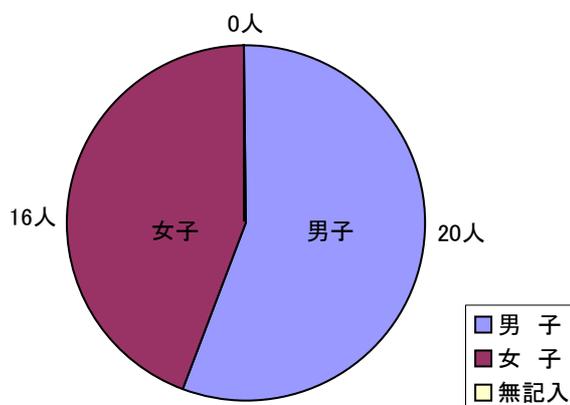
性別＜安田地区＞：36人



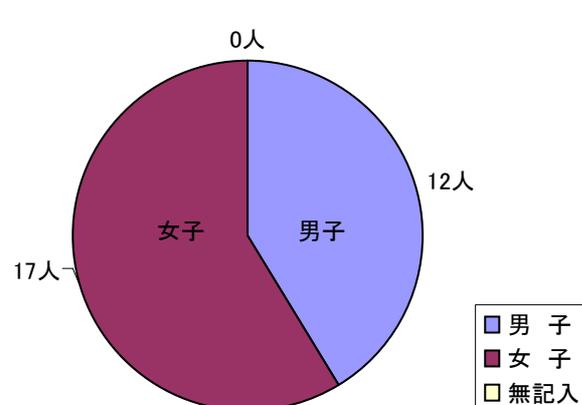
性別＜京ヶ瀬地区＞：38人



性別＜水原地区＞：36人

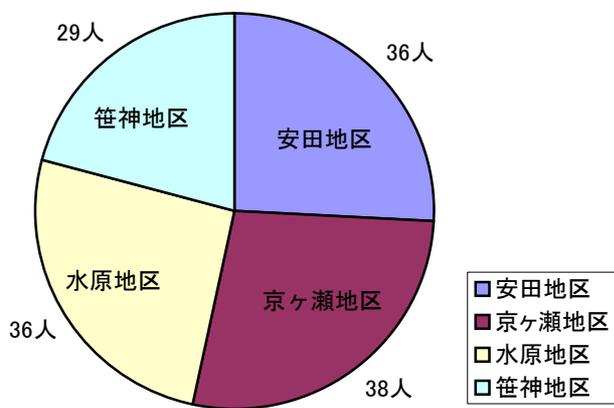


性別＜笹神地区＞：29人



問2：地区別

<全体>139人



問3 阿賀野市内で、登った山、泳いだ川、釣りをした川、昆虫採集や山菜採りをした場所

阿賀野市内で、登った山、泳いだ川、釣りをした川、昆虫採集、山菜採りをした場所から人気のある場所を抽出した。また、10%以上が改善と答えた場所を抽出した。

【人気のある場所を抽出する】

1. **五頭山**は、登った山や山菜採りで遊んだ場所で、一番人気がある。
五頭山は五頭連峰県立自然公園に指定された自然が豊かで、気軽に登山が楽しめる山であり、山頂からは蒲原平野を、そして天気の良い日には日本海や佐渡まで眺めることもできるすばらしいところである。
2. **宝珠山**は、登った山、山菜採りで遊んだ場所で、山では二番目に人気がある。
3. **都辺田川**は、泳いだ川、釣りをした川で人気がある。
4. 登った山の中では、**五頭山**が一番人気がある。続いて、**宝珠山**、**赤松山**、**憩いの森**の順となっている。また、五頭山は笹神地区で約6割が登った山である。
5. 昆虫採集をした場所では、**赤松山**、**大日原**が人気がある。ただし、139人中の約9割は昆虫採集をした場所を回答していない。身近な遊び場所に生息している昆虫が少ない事、昆虫採集などの遊びに余り興味が無い事が理由と考えられる。
6. 山菜採りをした場所では、**五頭山**が一番人気がある。ただし、139人中の9割以上が山菜採りをした場所を回答していない。

【集計結果より10%以上が改善と答えた資源】

1. **五頭山**は、登った山の笹神地区で**24%**、京ヶ瀬地区、水原地区で**11%**が主に「**ゴミが多くなった**」という理由で改善すべきであると答えている。
2. **憩いの森の川**は、泳いだ川の笹神地区で**14%**が主に、「**ゴミが多くなった**」という理由で改善すべきであると答えている。
3. **阿賀野川**は、釣りをした川の安田地区で**14%**、「**ゴミが多くなった**」、「**汚くなった**」という理由で改善すべきであると答えている。
4. **都辺田川**は、釣りをした川の安田地区で**11%**が主に「**ゴミが多くなった**」という理由で改善すべきであると答えている。

問4 阿賀野市の野生生物の名前

阿賀野市の野生生物の名前で人気のある生き物を抽出し考察した。

【人気のある生き物を抽出する】

1. トンボの仲間では、**アキアカネ**、**オニヤンマ**が回答の8割を占める。
2. チョウの仲間では、**モンシロチョウ**、**キアゲハ**が回答の8割を占める。
3. サカナの仲間では、**クロメダカ**、**コイ**が上位を占める。
4. ヘビ、カメの仲間では、**ミシシippiaアカミミガメ**、**マムシ**、**アオダイショウ**が回答の8割を占める。なお、ミシシippiaアカミミガメ(ミドリガメ)は、1950年代後半から「ミドリガメ」の名称で販売され始めた。1975年に人へのサルモネラ菌の感染が報告されると、多数の個体が遺棄された。日本国内のほぼ全域で越冬・繁殖でき、在来の淡水性カメ類に比べて大型で産卵数も多く、悪化した環境への耐性もあると考えられる。本種の個体数の増加と分布拡大は、餌となる生物や在来の淡水カメ類へ多大な影響を与えていると懸念されている。なお、H17年に施行された特定外来生物法には、在来種のカメに影響を与えているミシシippiaアカミミガメは「輸入数が多く、駆除も難しい。指定後に捨てられる危険もある」として指定されていない。
5. トリの仲間では、**スズメ**、**ハシボソカラス**、**コハクチョウ**が上位を占める。
6. 哺乳類の仲間では、**ホンドキツネ**が回答の約3割を占め、その他に**ツキノワグマ**、**ノウサギ**が上位を占める。
7. 植物は、**アカマツ**、**スギ**が上位を占める。水原地区では**ソメイヨシノ**、**セイヨウタンポポ**が上位に回答があった。

問5 田んぼの水路やため池、畑などでよく見かける写真の生き物の名前

写真の生き物の名前（和名または通称）の正解率から考察した。

1. 全体では、メダカ、ドジョウ、モンシロチョウ、アマガエル、オニヤンマ、トノサマガエルの順で正解率が高い。トノサマガエルが27%と極端に低いのは、平野部で生息地が減少したからと考えられる。なお、2005年9月28日の生き物調査で、トノサマガエルを都辺田川上流の丸山で確認している。
2. 地区別では、安田はメダカ83%、京ヶ瀬はモンシロチョウ76%、水原はメダカ69%、笹神はドジョウ90%が正解率の1位である。
3. 京ヶ瀬では、トノサマガエルの正解率が8%と極端に低い。主に、ガマガエル、ヒキガエル、カエル、ウシガエルと記入されていた。

(正解率を%表示)

	生き物の写真	正解の名前	全体 (139)	安田 (36)	京ヶ瀬 (38)	水原 (36)	笹神 (29)
1		トノサマガエル	27	33	8	19	52
2		アマガエル	53	72	55	25	62
3		ドジョウ	65	75	45	56	90
4		メダカ	75	83	66	69	83
5		オニヤンマ	44	58	21	31	72
6		モンシロチョウ	57	64	76	31	55

問6 あなたは家の手伝いで田んぼや畑に行っただことがありますか？

(回答を%表示)

		全体 (139人)	安田 (36)	京ヶ瀬 (38)	水原 (36)	笹神 (29)
1	手伝いで田んぼや畑に行っただことがある	67% { 57	61% { 50	74% { 61	50% { 44	86% { 76
2	よく手伝っているので田んぼや畑に何回も行くことがある	{ 10	{ 11	{ 13	{ 6	{ 10
3	手伝いで田んぼや畑に行っただことはない	27	39	21	36	10
4	無記入	6	0	5	14	4

問7 農業は、太陽や水、動植物、土壌などの自然の恵みを得ながら私たちの食べ物を生産するとても重要な産業のひとつです。あなたは、大人になって農業の仕事をやってみたく思いますか？

(回答を%表示)

		全体 (139人)	安田 (36)	京ヶ瀬 (38)	水原 (36)	笹神 (29)
1	農業の仕事をやってみたく	13% { 6	14% { 3	24% { 11	5% { 5	6% { 3
2	農業には興味があるので、農業に関わる仕事をしたい	{ 7	{ 11	{ 13	{ 0	{ 3
3	農業とは関係のない仕事をしたい	27	25	29	28	28
4	よく分からない	53	58	42	50	62
5	無記入	7	3	5	17	4

【考察】

次ページの間6と7のクロス集計によると、農業又は農業に関わる仕事をしたい人は約9割が田んぼの手伝いをした人である。全体で約7割が田んぼや畑の手伝いをしているが、仕事についてよく分からないが5割を占めている。中学1年生では将来の仕事は考えていないと思われる。大学や高校を目指す前の中学生時代に農業の役割や故郷の農村文化を学び・体験する機会をもつことが望ましい。

No.	問6と問7のクロス集計	全体 (131)		安田 (36)		京ヶ瀬 (36)		水原 (31)		笹神 (28)	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	農業又は農業に関わる仕事をしたい人で 田んぼの手伝いをしたことがある人	16 18	89	4 5	80	8 9	89	2 2	100	2 2	100
2	農業又は農業に関わる仕事をしたい人で 田んぼの手伝いをしたことがない人	2 18	11	1 5	20	1 9	11	0 2	0	0 2	0
3	農業とは関係ない仕事をしたい人で 田んぼの手伝いをしたことがある人	23 37	62	5 9	56	6 11	55	5 9	56	7 8	88
4	農業とは関係ない仕事をしたい人で 田んぼの手伝いをしたことがない人	14 37	38	4 9	44	5 11	45	4 9	44	1 8	13

※無記入を除く集計

問 8 あなたが住んでいる地区は、あなたが大人になったとき、どのような地区にしたいと思いますか？考えの近いものを1つ選んで○をつけてください。

(回答を%表示)

		全 体 (139)	安 田 (36)	京ヶ瀬 (38)	水 原 (36)	笹 神 (29)
1	自然を大切にす地区	55	66	50	44	59
2	農林業を大切にす地区	2	3	3	0	3
3	住みやすさを大切にす地区	10	8	10	11	10
4	歴史や文化施設を大切にす地区	4	6	3	6	0
5	都市型の活気ある地区	11	0	21	8	14
6	よく分からない	10	11	5	17	10
7	無記入	8	6	8	14	4

【考察】

自然環境を大切にす地区と答えた人が 55%と1/2以上を占める。しかし、身近な自然環境（いわゆる農村の二次的自然環境）を形成する農林業を大切にす地区と答えた人は、全体でわずか2%に過ぎない。

“自然環境”という言葉が漠然としていること、昔からどのように阿賀野市の原生自然が守られ、その周辺の里山環境が守られてきたかが分からないことが、農林業について関心が無い理由であると考えられる。農林業の多面的機能について広報や啓発、そして体験学習などを今後いっそう充実させていくことが望ましい。

問9 あなたが阿賀野市の中で残しておきたい自然が豊かな場所はどこですか？
その場所を残すために必要なことはなにですか？ 3つまで記入。

阿賀野市の中で残しておきたい自然が豊かな場所を、キーワードで大別した。

分類	残しておきたい自然が豊かな場所
水・川 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川 ・都辺田川 ・安野川 ・大荒川 ・折居川 ・瓢湖 ・親水公園 ・岩瀬の清水
山 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・五頭連峰 ・宝珠山 ・赤松山
植物 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・赤松山の森林 ・五頭山の森林 ・大日ヶ原 ・防風林
施設 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・五頭憩いの森 ・ふるさと公園 ・天朝山公園 ・水原代官所 ・サントピアワールド
その他 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・沢山の水田

自然が豊かな場所を残すために必要なことを、活動レベルで大別した。

活動レベル	自然が豊かな場所を残すために必要なこと	
個人レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを捨てない ・ゴミを拾う ・車を走らせない ・ペットを捨てない 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活排水を流さない ・米を食べる ・木を切らない ・自然を守る自覚を持つ
企業レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・開発しない ・ゴミを減らす ・ビニール袋を使わない 	
地域レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ清掃をする ・ポイ捨て禁止 ・ゴミ箱を設置する ・町を大切にする 	
団体レベル	—	
市レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・木を植える ・水質検査をする ・瓢湖をきれいにする 	
国県レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・農業人口を増やす 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を大切にする ・自然を大切にする ・川をきれいにする ・水をきれいにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・白鳥を大切にする ・他の生き物を入れない

里山景観保全のための技能調査アンケート

1. 調査の目的

「里山」は、古くは 1759(宝暦 9)年、木曾材木奉行補佐格の寺町兵右衛門が筆記した『木曾山雑話』に「村里家居近き山をさして里山と申し候」と記されています。しかし、里山という言葉が現代社会に蘇らせたのは、森林生態学者の四手井綱英であり、それは 1960 年代前半のことでした。そして、四手井は、「この語はただ山里を逆にしただけで、村里に近い山と言う意味として、誰にでも解るだろう。そんな考えから、林学でよく用いる『農用林』を『里山』と呼ぼうと提案した。」と述べています。

里山の環境学（著者：武内和彦・鷺谷いづみ・恒川篤史 2001 年）によると、里山（農用林）と里地（山地と平地の中間地域）の概念は図 1.1 のとおりです。

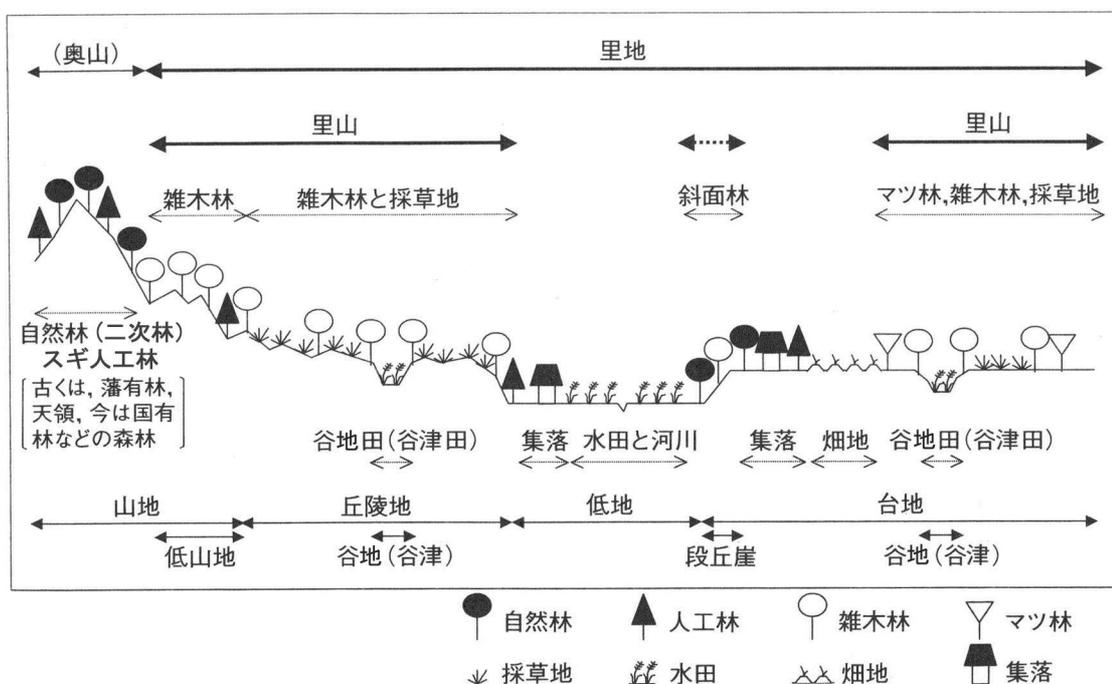


図 1.1 里地と里山の概念（山本，2000 を改変）

本アンケートにおける「里山景観保全」は、丘陵地、谷地（谷津）および低山地における雑木林と採草地および谷地田（ここでは山間田を含む）、そしてそこに暮らしている人々の集落を含めた範囲を考えました。

里山を維持するには、林床の手入れをし、萌芽更新をおこなって、広葉樹林の植生環境を管理していかなければなりません。

里山景観保全とは、いくつもの時代を経てつくり上げられてきた風景、自然と人が調和する風景、そしてそこに蓄えられた豊かな生活の知恵や技能を消滅させないことが大事だと考えました。そこで、里山景観保全のための技能調査をおこなって、生活の知恵や技能の伝承の優先順位を明らかにして、農村環境計画策定に反映させることにしました。

2. アンケート配布・回収

笹神区を中心に15集落の50歳以上の世帯主をアンケート対象としました。なお、アンケートの回答欄には、技能保持者を3名まで記入できるようになっています。

	配布枚数	回答数	回収率
全 体	719	130	18%

3. アンケート調査結果

3-1. 技術内容と技能保持者数

技術内容	技能保持者数
1. 家屋工事・営繕	36人
2. 民具	46人
3. 森林景観	32人
4. 田園（山間田）景観	33人
5. 水辺景観	22人
6. 生活物資	25人
7. 資源利用	47人
計	241人

3-2. アンケート集計結果

1. 家屋工事・営繕について
 家屋工事・営繕に関する①～⑩の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
 さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	全体 技能保持推定期間 (36人)			年 齢							
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	49才以下 31年 (2人)	50～55才 28年 (2人)	56～60才 22年 (4人)	61～65才 17年 (9人)	66～70才 12年 (6人)	71～75才 7年 (3人)	76～80才 2年 (8人)	81才以上 0年 (2人)
				人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 大工	12	15	C	1	1	2	4	1	0	1	2
② 左官	4	23	E	1	1	1	0	1	0	0	0
③ 石工	2	5	A	0	0	0	1	0	0	1	0
④ 木工造作	2	6	B	0	0	1	0	0	0	1	0
⑤ 土間づくり	6	13	C	0	0	0	2	3	1	0	0
⑥ 茅葺き(手伝いを含む)	2	7	B	0	0	0	1	1	0	0	0
⑦ 茅場づくり	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ カンジキづくり	8	5	A	0	0	0	1	0	2	5	0
⑨ 漆技能	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑩ 横井戸掘削	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑪ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

2. 民具について
 民具に関する①～⑧の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
 さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	全体 (46人)			年 齢							
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	49才以下 31年 (2人)	50～55才 28年 (1人)	56～60才 22年 (4人)	61～65才 17年 (6人)	66～70才 12年 (10人)	71～75才 7年 (9人)	76～80才 2年 (11人)	81才以上 0年 (3人)
				人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 縄ない	31	9	B	1	0	1	5	7	8	6	3
② ミノづくり	3	10	B	0	0	1	0	0	1	1	0
③ わらぐつ	2	1	A	0	0	0	0	0	0	2	0
④ わらじ	2	4	A	0	0	0	0	1	0	1	0
⑤ ムシロづくり	1	16	D	1	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 竹の加工	7	16	D	0	1	2	1	2	0	1	0
⑦ 養蚕やアオソ(から虫)などの機織	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

3. 森林景観について
 森林に関する①～③の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
 さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	全体 (32人)			年 齢							
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	49才以下 31年 (1人)	50～55才 28年 (2人)	56～60才 22年 (3人)	61～65才 17年 (4人)	66～70才 12年 (4人)	71～75才 7年 (7人)	76～80才 2年 (8人)	81才以上 0年 (3人)
				人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 杉林の手入れ	28	10	B	1	2	2	4	2	7	8	2
② 雑木林の手入れ	4	12	C	0	0	1	0	2	0	0	1
③ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

技能消滅 推定期間	レッドデータ化 レベル
0～5年	A
6～10年	B
11～15年	C
16～20年	D
21～25年	E
26～30年	F
31年以上	G

4. 田園(山間田)景観について
 山間田に関する①～④の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
 さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。そして山間田所有の有無、ハサ干しの有無等の質問にお答えください。

	全体 (33人)			年 齢							
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	49才以下 31年 (2人)	50～55才 28年 (3人)	56～60才 22年 (1人)	61～65才 17年 (7人)	66～70才 12年 (4人)	71～75才 7年 (5人)	76～80才 2年 (8人)	81才以上 0年 (3人)
				人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 山間田の畦塗り技術	26	11	C	2	1	0	6	3	5	7	2
② 山間田の水管理技術	6	13	C	0	1	1	1	1	0	1	1
③ 山間休耕田の手入れ技術	1	14	C	0	1	0	0	0	0	0	0
④ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅱ. 地域内の環境評価 2. 住民の意向調査

里山景観保全のための技術調査アンケート

5. 水辺景観について

水辺に関する①～④の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	年 齢										
	全体 (22人)			49才以下 31年 (1人)	50～55才 28年 (3人)	56～60才 22年 (1人)	61～65才 17年 (3人)	66～70才 12年 (4人)	71～75才 7年 (6人)	76～80才 2年 (3人)	81才以上 0年 (1人)
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 石積みため池構築技術	4	14	C	1	0	0	1	0	1	1	0
② 石積み水路構築技術	0			0	0	0	0	0	0	0	0
③ えざらいなどの手入れの仕方	18	13	C	0	3	1	2	4	5	2	1
④ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

6. 生活物資について

生活物資に関する①～④の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	年 齢										
	全体 (25人)			49才以下 31年 (2人)	50～55才 28年 (2人)	56～60才 22年 (0人)	61～65才 17年 (4人)	66～70才 12年 (4人)	71～75才 7年 (5人)	76～80才 2年 (7人)	81才以上 0年 (1人)
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 焚き木の採集技能	20	11	C	1	2	0	3	4	4	5	1
② 炭焼き技能	4	7	B	0	0	0	1	0	1	2	0
③ 薪炭林管理技能	1	16	D	1	0	0	0	0	0	0	0
④ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

7. 資源利用について

資源利用に関する①～⑪の技能をお持ちの方は、該当する技能に○印または技能内容をお書きください。
さらに技能者の氏名、性別、年齢、職業をお書きください。

	年 齢										
	全体 (47人)			49才以下 31年 (4人)	50～55才 28年 (3人)	56～60才 22年 (4人)	61～65才 17年 (5人)	66～70才 12年 (9人)	71～75才 7年 (8人)	76～80才 2年 (11人)	81才以上 0年 (3人)
	人数	技能消滅 推定期間	レッド データ化	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
① 薪炭林管理技術	8	6	B	0	0	0	0	1	4	2	1
② 炭焼き技術	9	7	B	0	0	0	1	2	2	3	1
③ 炭焼き窯づくり技術	2	8	B	1	0	0	0	0	0	1	0
④ 焚き木の採集技術	10	17	D	0	1	2	3	4	0	0	0
⑤ 薪づくり技術	4	7	B	0	0	0	1	0	1	2	0
⑥ キノコ栽培技術	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 投網、ヤス、素手等魚獲り伝統技術	4	23	E	2	1	0	0	0	0	1	0
⑧ 狩猟の技術	1	11	C	0	0	1	0	0	0	0	0
⑨ 山菜採り技術	9	13	C	1	1	1	0	2	1	2	1
⑩ 薬草採り技術	0			0	0	0	0	0	0	0	0
⑪ その他	0			0	0	0	0	0	0	0	0

技能消滅 推定期間	レッドデータ レベル
0～5年	A
6～10年	B
11～15年	C
16～20年	D
21～25年	E
26～30年	F
31年以上	G

- ① 技能伝承限界年齢を80歳と仮定し、技能消滅推定期間を算定しました。
- ② 技能消滅期間が0～5年をAランク、順次Gランク（31年以上）までのレベルとしました。
- ③ Aランクは民具のわらぐつ（1年）、わらじ（4年）、家屋工事・営繕の石工（5年）、カンジキづくり（5年）で早急な技能伝承が必要と思われます。
- ④ Bランクは家屋工事・営繕の木工造作（6年）、茅葺き（7年）、民具の縄ない（9年）、ミノづくり（10年）、森林景観の杉林の手入れ（10年）、生活物資の炭焼き技能（7年）、資源利用の薪炭林管理技術（6年）、炭焼き技術（7年）、薪づくり技術（7年）、炭焼き窯づくり技術（8年）で、順次に技能伝承が必要と思われます。

[参考文献：H13 上越市中山間地景観保全に係る技術伝承事業 里山景観保全の啓発資料書 かみえちご山里ファン倶楽部]